



『一步一步進もう』

~Let's Move Forward Step by Step~
東京六本木ロータリークラブ会長

TOKYO ROPPONGI ROTARY CLUB

WEEKLY REPORT

東京六本木ロータリークラブ



『ロータリーは分かちあいの心』

～Rotary Shares～
国際ロータリークラブ会長

発行日 2008年4月21日

No. 32

平成20年4月7日

卓話 『アメリカの大統領選挙と日米関係』
エアバス・ジャパン株式会社 代表取締役社長・CEO
在日米国商工会議所元会頭
グレン・S・フクシマ 様

グレン・S・フクシマでございます。本日はアメリカ大統領選挙と日米関係について、つたない日本語で話させていただきます。今回の大統領選挙、歴史的な選挙と言えると思います。80年ぶりに現職の大統領も副大統領も選挙に出でていないこと。初の女性大統領になるかもしれない候補者がいること。初めて選挙で勝てるかもしれない黒人、バラク・オバマが候補者になっていることなどです。さらに、今回の大統領選挙の特徴は非常に予測しにくいこと。

例えばアイオワ州の結果を見て、ほとんどの専門家も世論調査もニューハンプシャーの予備選でオバマが勝つと予測したのが、実際はヒラリー・クリントンが勝ったことです。民主党では7名が候補者として出てクリントンとオバマが残っています。これは1年ほど前には予測外のことと、圧倒的にクリントン有利と見られていました。オバマは上院議員歴がまだ3年で47歳で経験も少なく、そして黒人だということもあって、彼が民主党の候補者として残ると予測した人は少なかったと思います。今回のオバマ・フィーバーは相当興味深い現象で、カリスマ性があり、演説も上手で魅力的な候補者だということで、マスコミもかなり魅了されていると思います。クリントンは実力がある有能な人ですが、演説や人をひきつける魅力からいうとオバマの方が強いと見られています。

ここまでの大統領選挙の争点はイラク戦争、健康保険、環境問題など伝統的に共和党、民主党の間で論争があるテーマでしたが、最近は経済面の不安が出てきています。元々イラク戦争が行き詰まっていることで共和党への批判が高かったところに、経済の不安が加わって、全体から見ると民主党が有利だと思います。特にマケイン候補は「俺は経済のことは何も知らない」と公けに言ってますので、彼は安

全保障に関して知識はあるけれど経済に関しては力はないと一般的に見られています。

民主党の候補争いの見通しですが今の時点で断言できる人はいないようです。今の代議員数はオバマが1632、クリントンが1500でオバマがリードしていますが、いわゆる特別代議員に関してはまだクリントンの方が少しリードしています。

政策に関しては、民主党政権になれば明らかにアメリカの外交も内政も相当変わると思います。たとえマケイン政権になってしまっても相当今の政権とは内政面も外交政策も変わると思います。日米関係に関しては、経済面でも安全保障面でも相当強い基礎がありますので、どちらの政権になってもそんなに変わることはないと思いますが、民主党政権になった場合、オバマもクリントンもブッシュ政権の外交政策はアメリカ中心主義で世界に嫌われる形の外交をしていると批判しているので、他の国との関係を改善しようとする努力を最初からすることが予測できます。ということは日本が間接的に影響を受ける可能性もあります。したがって結論として、日本側が次の政権に対して日米関係をどういう方向に持っていくかという提案を積極的にする必要があります。それは、他の国との関係を改善する必要があるということです。日本が相対的に今以上に注目されなくなる危険があるという可能性です。日本の政治指導者も財界、官界の方もアメリカの新しい政権、どういう政権になるかよく研究されて、積極的に日本側から提案される方がいいのではないでしょうか。

ありがとうございました。

